

5月24日(日曜日)「ウジヤの栄えと滅び」

【新改訳 2017】

Ⅱ 歴代誌 26・1－23

「彼(ウジヤ)は神を認めることを教えたゼカリヤの存命中は、神を求めた。彼が主を求めている間、神は彼を栄えさせた。……しかし……彼の心は高ぶり、ついに身に滅びを招いた。……」(5－16節)

ここには「栄光と滅び」の靈的方程式があると言えます。

- ① 人が神の教えを聞き、神を求めるかぎり、たとえ困難はあっても、栄えさせていただけます。
- ② しかし、人は、特に権力者や成功者となって少しでも事がうまくいき、強力(有力)になると、高慢になりやすいのです。
- そして、③ ついに身の崩壊を招いてしまいます。
- また、④ 他人の、特に靈的・信仰的な

人の忠告や助言を聞くうちは健全ですが、聞かなくなったら、遠からず失敗するでしょう。自分を小さな神にしてしまうからです。ソロモンの箴言にも繰り返し教えられているとおりです(箴言 11・14、15・22、31－33ほか)。

指導者が独裁者になったら危険です(同18・12)。

～祈り～

主よ。キリスト教界の指導者たちを、高慢の罪からお守りください。また、すべての信仰者も同じようにお守りください。

【学びのために】

ウジヤ王(別名アザルヤ)は、BC783－742年に在位。

人の助言や忠告に耳を傾ける大切さを忘れないように。指導者の滅びの公式＝成功(繁栄)→高慢→滅び。

